

東京オリンピック・パラリンピック に向けてのワクチン対策について

～侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん、風しん等～

東京都医師会理事
鳥居 明

感染症対策の基本

マスクやザリングにおいては感染症のまん延が予想されるが、ワクチンで防ぐことのできる疾患（VPD）はワクチンで防ぐのが原則である。

マスギャザリング

- 2020年に東京においてオリンピック・パラリンピック大会が開催される。
- 現在の時点で約4,000万人の訪日外国人旅行者数が予想されている。
- 1日当たりの予想来場者数は92万人と言われている。
- WHOは「一定期間、限定された地域において、同一目的で集合した多人数の集団」をマスギャザリングと定義している。
- オリンピック・パラリンピック東京大会はまさにマスギャザリングということができる。

感染症まん延の条件

① 過密：生活・衛生環境の悪化

② 移動：病原体の持ち込み

オリンピック・パラリンピック開催時期においては、この2つの条件が満たされ、感染症のまん延が予想される。

マスクギャザリングの環境下で 注意が必要な疾患

① 麻しん：

空気感染をするため、きわめて感染力が強い。

② 風しん：

妊娠中に感染すると胎児に影響を及ぼす。

③ 侵襲性髄膜炎菌感染症：

病状の進行が早く、重症化する。

危機的事態

危機的事態：

感染症の発生、拡大により都民等の健康に影響を及ぼし、大会運営に支障が生じる可能性があり、以下の対応を検討する必要がある状況。

- ① 競技の中止、順延等
- ② 選手・関係者並びに観客、地域住民等の安全確保を図る対策
- ③ 被害拡大防止のため広域的・組織横断的な対応

VPD

VPD (Vaccine Preventable Disease)

ワクチンで防ぐことのできる疾患

麻疹

風疹

侵袭性髄膜炎菌感染症

ワクチンで防ぐことのできる疾患「VPD」は
ワクチンで防ぐのが感染防御の原則

東京都医師会の活動

日本医師会代議員会代表質問

(平成31年3月31日)

麻しんの発生予防・蔓延防止には全国レベルでの対策が必要であり、とくに交通手段の発達した現代においては全国レベルでの麻しん対策は喫緊の課題と考え、日本医師会の今後の対策を質問する。

マスギャザリングの環境下で課題となる侵襲性髄膜炎菌感染症に関する対策についても質問する。

全国各地の自治体が選手団や関係者を受け入れるホストタウンとなっており、全国規模で感染症対策を講じる必要がある。

東京都医師会の活動

東京都小池都知事へ要望書提出

「東京オリンピック・パラリンピック大会関係者における麻疹の予防・まん延防止に関する要望書」

(令和元年5月15日)

< 対策 1 > 大会関係者、選手、都市ボランティア（約3万人）及び大会ボランティア（約8万人）に対して麻疹抗体価検査を行い、抗体陰性または抗体価低値の者にワクチン接種を行う。

< 対策 2 > 都民全体に向けて、麻疹をはじめとする各種感染症に関する啓発活動をさらに強化する。

九都県市首脳会議

九都県市首脳会議が国に対して要望

(令和元年5月23日 根本厚生労働大臣あて)

「麻しん（はしか）対策の推進についての要望」

東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、横浜市、
川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市

1. 感染の中心になっている年代への定期接種化
2. 海外渡航予定者に対する予防接種
3. 国が財源を確保
4. 国の主導によるワクチンの安定供給

東京内科医会、東京小児科医会合同学術講演会

オリパラ東京大会に向けての ワクチン対策緊急会議

講師：川崎医科大学小児科学教授 中野貴司

演題：国際イベントが続く日本、今後懸念
される海外からの様々の感染症について
～髄膜炎菌感染症、麻しん、風しん等

日時：2019年9月20日（金）19：30～21：00

場所：東京都医師会館2階講堂

東京内科医会、東京小児科医会、サノフィ株式会社共催
東京都医師会後援

最近の風しん感染例

- 国際協力銀行総裁が風しんと診断される（7月3日）
G20 関連会議にも出席
- 総裁の生年月日
昭和32年12月25日

<風しん第5期定期接種>

- 昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性
- 風しんの抗体検査施行
陰性あるいは低値の場合はMRワクチン接種

事前に受けておきたいワクチン

国際的マスギャザリングに関連したワクチン

疾患名	一般市民	医療関係者	大会関係者	メディア関係者
麻しん	+++	+++	+++	+++
風しん	+++	+++	+++	+++
髄膜炎菌	—	++	++	+
インフルエンザ	+	+	+	+

+++：全員に強く推奨

++：感染のリスクが高いと考えられる人に推奨

＋：接種が好ましい

—：平時と同様の対応

インフルエンザは大会前ではなく、大会開催1年前（2019～2020）

ヘルスリテラシーと行動変容

- ナッジ（Nudge）理論
ナッジ＝ひじで軽くつく
2017年ノーベル経済学賞受賞
米シカゴ大学リチャード・セイラー教授
人を強制によらず、ちょっとしたきっかけで
望ましい行動に導く
- ワクチン接種の必要性を認知し、ワクチン
接種を受ける。

マスクギャザリングにおける ワクチン対策

<麻しん、風しん>

麻しんおよび風しんの抗体検査を受ける。

陰性あるいは低値の場合はMRワクチンの接種を受ける。

<侵襲性髄膜炎菌感染症>

ハイリスクの人はワクチンの接種を受ける。